

# 令和2年度 栃木県立宇都宮清陵高等学校 学校自己評価

<b>教育目標</b> ○豊かな思考力に支えられる創造的な知性を持つ生徒の育成 ○強い意志力から生まれる自立的な精神を持つ生徒の育成 ○知・徳・体の調和のとれた豊かな人間性を持つ生徒の育成
---

<b>目指す学校像</b> ○一人一人の進路実現に向けた、きめ細やかな進路指導と充実した学習指導に取り組む学校 ○規範意識を高め、社会性と自ら進んで行動する力を伸長させることに努める学校 ○特別活動の充実を図り、心身の健康を養い思いやりや協調性をもつ生徒を育成する学校 ○現代社会の変化に対応できる教養を高めるために、科学技術リテラシー教育を推進する学校
---

<b>今年度の重点目標</b> 1. 「深い学び」のための支援を充実し、進路意識の高揚と学力向上を図る 2. 学校生活における達成感を味わわせる指導の充実を図り、愛校心を育てる
--

達成度	A: 十分満足できる
	B: 概ね満足できる
	C: 満足できない
	D: 努力を要する

※上記の4段階を基に、各領域において達成基準を作成

## ◇重点目標 1. 「深い学び」のための支援を充実し、進路意識の高揚と学力向上を図る

領域	具体的な教育活動	達成状況	達成度	次年度への課題
部	<b>教務</b>	(1)教育目標の実現を目指し、生徒の特性や進路希望に即したクラス編成・類型・新教育課程の作成を行う。 ・各所と連携を図り、新教育課程の作成を行った。更に、実施に向けて課題を洗い出し改善を図っていくことを確認した。	B	・教育ICT化へ向けての環境整備及び総合型教務支援システムへのスムーズな移行。
	<b>学習</b>	(1)情報を活用した学習及び他者と協働した学習の機会の創出と実践支援をする。 (2)日々の学習サイクルの定着及び自主学習の実践支援をする。 ・コロナ禍対応の影響もあり、計画通りの活動ができなかった部分もあるが、「清陵生学力アッププログラム」の推進及びICTを活用した授業や学習活動に進展が見られた。	B	・実戦的ICT活用の更なる推進。 ・自主学習の実践支援の強化、改善。
	<b>図書</b>	(1)図書館を活用した行事の充実に努めるとともに、購入希望図書や進路研究、時期に応じた図書を充実させて、読書の場・学びの場として整備する。 ・コロナ禍により研修などがなくなってしまったが、清陵祭や図書クエストを工夫して実施することができた。	A	・今年度実施できなかった行事を実施する工夫。 ・予算減少への対応。図書館の活性化。
	<b>進路</b>	(1)進路行事で意識を高め、希望進路に向けて生徒が意欲的に学力を向上させることができるよう支援する。 ・コロナ禍において例年と異なる形だが、行事をほぼ実施できた。 ・3年生の志望理由書の指導の事前準備をさせることができた。 ・行事の振り返りなどClassiの利用が定着した。 ・自主的に学習に向かう姿勢が生徒によって異なった。	B	・新しい入試制度、新教育課程などに向けて、進路行事の見直しを行う。 ・各部・各教科と連携し、授業第一の姿勢を育成する。
学年	<b>1学年</b>	(1)自学自習の習慣の確立。 (2)基礎学力の定着と思考力の育成を図る。 (3)生徒の現状を把握するため、面談等を充実させる。 ・朝学への参加、授業態度は概ね良好だった。多くの生徒は授業内容が定着していると言えない状況で、学習意欲は生徒によって大きな差がある。進路意識は徐々に高まっている。	B	・具体的な進路目標を掲げ、学習意欲に結び付けられるような具体策を講じる。家庭学習を習慣化させるための策を講じる。
	<b>2学年</b>	(1)朝の学習や放課後における教室、図書室の利用を促し、学習時間を確保するとともに「やればできる」を実感させる。 ・朝学に積極的に取り組むなど、自学自習の習慣は不十分な所もあるが、4年生大学への進学を希望する生徒が増加している。面談等を有効活用し、生徒の進路意欲高揚に努めた成果が出ている。	B	・各自が自分の目標に向かって、達成するための具体的な努力をするために、放課後や学校開放などもさらに有効利用させたい。
	<b>3学年</b>	(1)学習のアドバイスやサポートを受けやすい環境を作る。 (2)図書室や教室における自主学習を奨励する。 ・放課後学習を奨励し、学習環境を整えてきた。人数はそれほど多くはないが最後まで粘り強く取り組んだ。	B	・例年よりもっと早くに学習支援体制を整え、各教員が進路情報を共有し、生徒の学習を支援しやすい環境を作る。
教科	<b>国語</b>	(1)「漢字コンクール」を軸として、国語力の基礎となる漢字能力の育成を図る。 ・コロナ禍で2回分短くして全6回として実施できた。学年平均は進級にたい微増した。ただし、全学年とも昨年の同学年平均を下回った。	B	・「追指導」のあり方(不合格者が多かった)の検討。 ・漢字コンクールへの取り組み意欲でこ入れ。
	<b>地歴公民</b>	(1)進度を確保しつつ、授業に入試問題等を取り入れる。その問題を基に主体的な活動を行い、進路意識を高めるとともに内容の深い学習に結びつけさせる。 ・ノート等の作成状況の確認や、授業に入試問題等を取り入れることはある程度できたが、主体的な活動や内容の濃い復習、知識の定着に結びつけさせることには不十分な指導となってしまった。	C	・基本的な知識の定着を図ることに加え、思考力や判断力、表現力等の力を育むための指導や、復習を習慣化させる工夫を継続していきたい。
	<b>数学</b>	(1)主体的な学びを促す発問や仕掛けを工夫する。また、知識を活用する問題への適応を高める指導を研究する。 ・コロナ禍で学び合いの場が制限されたが、発問等により考え理解する授業になるよう工夫し、課題のフォローや学習内容の精選等により進度を確保できた。また、知識を活用した問題にも触れられるようテストを改善した。	B	・自発的な家庭学習を促す仕掛け作り、課外の内容の工夫、ICTの活用等、取り組むべき課題がある。また、文型の2年1月の課題テストなど、進路実現に向けた教科のバランスのあり方を検討したい。
	<b>理科</b>	(1)授業において生徒が主体的に取り組む教育活動を推進し、科学的・論理的思考力の育成を図る。 ・実験やその後の授業で実験内容について対話的学習を行った。理科の概念や法則との関連づけができ、理解を深めることができた。更に、論理的思考力の定着を目指し、定期試験を改善した。	B	・実験や観察を通して理科の概念や法則との関連づけをより深めたい。実験・観察と図表・グラフの問題演習量を増やしたい。
	<b>英語</b>	(1)「英単・構文コンクール」と「Weekly Test」により、語彙力の強化と文法知識の習得を図る。 ・テストへの学習習慣が身に付き、しっかりと準備して臨む生徒が増えてはいるが、修得状況はまだまだである。	B	・不合格者への指導の徹底。 ・統一方式の検討(以前の実施方法) ・学習内容の定着の強化を図る。
	<b>科学技術</b>	(1)科学技術の発展と利便性を学びながら、基礎的な仕組みや理論を理解させ、実験・実習に積極的に取り組ませる。 ・今年度はパワーポイントおよび書画カメラを使って、生徒に実物を見せつつ実験の説明などを行い、よりわかりやすい授業が実施できた。	B	・教員が毎年入れ替わりながら授業をする環境なので、提示資料(パワーポイント)の充実を図りたい。
	<b>情報</b>	(1)情報モラルやネットマナーを身に付けさせ、学びを深める手段としてのICTリテラシーを向上させる。 ・検定問題等を活用して、技術向上が図れた。 ・情報モラルについては教科書の内容にとどまってしまう、具体的なものとならなかった。教材の工夫が必要。	B	・SNSを意識した情報モラルについての指導をしていくこと。 ・2022年の新教育課程に向けた内容・評価の検討をしていくこと。

◇重点目標 2. 学校生活における達成感を味わわせる指導の充実を図り、愛校心を育てる

領域	具体的な教育活動	達成状況	達成度	次年度への課題
部	生徒 (1)交通ルールの遵守・交通マナーの向上と交通事故の防止に取り組む。 (2)ネットトラブルの防止に対する意識の向上を図る。	・(1)(2)ともに様々な場面で「マナー向上・注意喚起」を促したが、大いに改善の余地がある。特に(2)は指導を強化すべきである。	B	・重要課題であるため、次年度以降も継続して指導していく。
	特活 (1)各行事へ生徒が仲間とともに自主的・積極的に参加し、活発な行事になるよう支援していく。	・制限された状況の中では十分できた。	B	・これまでの経験をもとに様々な状況に対応しながら、生徒の心情を大切に行事の運営を心掛ける。
	健康 (1)清掃活動への意識の高揚をはかり、生活環境の改善、充実をはかる。	・放送委員に清掃開始5分前の放送実施により分担区への生徒移動が早くなり、清掃活動の時間を確保することができた。 ・清掃用具の整備、充実ができ、清掃への意識高揚につながった。	B	・清掃強化週間を各学期に1度実施できるように、年間行事計画に明記するとともに、効果的な実施方法を検討する。
	渉外 (1)学校と保護者との連携を通して本校の教育活動を支援し、充実させることにより生徒の学校生活における達成感を高める。	・コロナ禍の影響で学校行事へのPTAの関わりが難しく、県内外のPTA関連行事も中止となる中、教育活動の支援策を模索し続けた。	B	・コロナ禍におけるPTAの関わり方を保護者の方々と考える。グリーンカーテンや木の葉さらいの在り方も検討する。
学年	1学年 (1)こまめな指導を通して服装・髪型の乱れ防止を図る。時間厳守を徹底する。 (2)クラスの連帯感を高める。	・教員間の協力体制ができていたおかげで、大きな乱れはなかった。 ・提出物の期限も含め、時間を守ることについては継続指導が必要である。	B	・規範意識を高め、自律した行動がとれる生徒の育成を目指す。 ・物事へ積極的に取り組み、リーダーシップを発揮できる生徒の育成を目指す。
	2学年 (1)さわやかな挨拶、場に応じた言葉遣い、迅速な行動等を通してお互いを認め合い高める。	・著しく着崩したりしている生徒はおらず、落ち着いて学校生活を送っている。チャイム to チャイムが実践できるようになってきている。	B	・全ての項目について、今年以上に徹底する。
	3学年 (1)マナー(挨拶、言葉遣い等)の向上を図る。 (2)学校生活のさまざまな場面で、仲間と協力しあい目的を達成する。	・受験意識が高まり、挨拶や協力の姿勢が見られたが、マナーや言葉遣いの点でまだ改善が必要である。	B	・マナーや言葉遣いを3年次になる前に身に付けさせ、進路決定した後も継続できるようにすること。
教科	保健体育 (1)自らスポーツに親しむことの楽しさや喜びを実感させる。	・コロナの関係で新体力テストを1学期に実施できず、結果をフィードバックさせる時期が遅くなり、効果的な活用ができなかった。 ・球技選択の際に異なる種目を選択させることによって、さまざまな活動を行うことができ、楽しむことができた。	B	・新体力テストを年度始めに実施し、その結果を基に補強運動の種目に修正を加え、基礎体力の向上に努めたい。
	芸術 (1)生徒が自分の良さに気づき、積極的に自己表現することにより達成感を味わえるよう授業の展開を工夫する。	・感染症の制限の中で、新しい教材の研究・工夫によって何とか授業を展開した。	B	・今後も様々な状況においても生徒の表現力向上に効果のある教材の研究や授業の展開について研究する。
	家庭 (1)体験活動を多く取り入れ、実生活に応用できる力を身につけさせる。 (2)実験実習に関して事後評価の工夫をし、生徒の意欲を引き出す。	・計画どおりに実習を行うことはできなかったが、代替となる教材等を使うことで、生徒が関心を持って主体的に取り組むことができた。	B	・次年度もこの状況は続くと思われるので、コロナ禍での実習のルール作りを行うこと、実習の代替となる授業や教材等の研究をすることが必要である。

◆保護者及び生徒アンケート

「重点目標1」に関する「学力向上や進路意識の高揚」への取組は、今年度も良好な評価を得ている。「授業外での学習活動」は評価の上昇が見られるものの満足できるものではない。尚一層、行事の改善・ICT機器の活用を進めていきたい。また、希望の多い学習室を再整備し、放課後の学習支援強化を図りたい。

「重点目標2」に関する「学校生活を有意義に送っている」「入学してよかった」は2年連続評価が上昇している。引き続き達成感を味わわせる場の設定と支援を行っていくことが必要である。

自由意見として、教員の生徒への言葉遣い・態度についての指摘が見られた。教員としての自覚とモラルの向上が望まれている。

◆学校関係者評価

本校をよくするために、年度を越えて長期的にPDCAサイクルをまわしていく必要がある。アンケートで、生徒・保護者・教職員の評価に大きな差が見られる項目は受け止め方の差を小さくしたり、「分からない」と回答する保護者の割合を減らす努力をすべきである。また、生物の授業において山口大学の協力が得られたことはよいことであり、今後も大学との連携や地域との連携を進めていきたい。生徒指導関係においては、交通事故・SNSでのトラブルの増加に対してより効果的な指導法の工夫が不可欠である。

生徒にとって3年間という限られた時間を有意義に過ごせるよう、今後も教育活動に取り組んで欲しいとの言葉とともに、以上のような意見を頂いた。

◆重点目標における総合評価

評価基準	(1) 各達成度に対し、「A:7点」、「B:5点」、「C:3点」、「D:1点」を乗じて点数化する。				
	(2) 点数化した合計点を課題数で平均化(評価点)し下表に従い総合評価する。				
	総合評価	A	B	C	D
評価点	6.0以上	5.9~4.0	3.9~2.0	2.0未満	

重点目標1	重点目標2
<p>「清陵生学力アッププログラム(2年目)」の実施や「ICT機器(タブレット・プロジェクターなど)の活用」の促進等、学力向上に向けて効果的な指導法の追求を引き続き行った。個人レベルの実践を学校全体に広げよりよい学習支援ができるよう修正・改善をしていく必要がある。進路行事についてはコロナ禍において縮小・変更のうえ実施し、意識の向上に努めた。しかし、実際の大学見学や体験活動ができず、進路選択の幅を広げたり、進路実現に向けた学習行動等が弱くなっているのではとの危惧がある。教員間での進路情報の共有化と、この状況が続いた際の次善策を考えていきたい。</p>	<p>コロナ禍において行事の縮小・変更が余儀なくされたが、今年度は生徒の主体性を活かし、清陵祭では昼食の提供、球技大会では学級対抗リレーの導入を行った。これらも「生徒が主体的に取り組み解決しようとしている。」の教員からの評価の向上につながった要因の一つと思われる。しかしながら65%の教員がまだ不十分と捉えていることから、今後も様々な機会を捉え適切な助言と支援を行っていく必要がある。また、コロナ感染症対策を行いながら教育効果を十分に上げるための学校行事の在り方、授業形態や教材等の工夫を考える必要がある。</p>
B  (5.00)	B  (5.00)